

今日の講座を振り返って

これからも考えていきたいこと

NOBURO HAGIWARA SEP 30, 2017 10:50PM

すごい仕組みですね

この仕組みを知ったことは、とてもすばらしい。

ふりかえり



評価

一人一人をしっかり見とる！

経験の質の変容

経験の質の変容という考え方をこれからも考え続けていきたいと思っています。本当にこの問いかけは・この返答は、生徒の経験の質を変化させるために役立っているのか？改めて考えていく必要があると感じました

Google ストリートビューを活用して、認知症患者の記憶障害の回復に挑む研究

<https://www.google.co.jp/intl/ja/about/stories/bike-around/index.html>

Anastasis Academyの記事がありましたので共有します

<https://dreamsofeducation.wordpress.com/tag/anastasis-academy/>

やはり「differentiation」がキーワードになっているのですね。「true differentiation」を考えていきたいです。

テクノロジーの活用で人にしかできない評価に時間をかけたい

学校全体で評価に取り組むということ

今回の講座で改めて考えさせられた部分は、学校全体として、評価というものにどう取り組むことができるか？どこを変えることができるか？という問いかけでした。

個人として、教科として、学校として・・・など、色々なレイヤーがあると思いますが常に、問い直し続けていく必要を感じました。これを他の先生にどうすれば理解してもらえるか？これが課題です。

いいツールをおしえあう。



trim.647491E2-7235-4CBF-ADC7-7D0889004F09

0:40 video

PADLET DRIVE

「評価活動を誰のために行うのか」という問い

この問いかけを常にしていかなければならない、と感じました。生徒が何ができるようになって、何をこれからできるようにしていくか。動機付けをするための評価でありたいと考えます。

自分の生きている環境（教育している現場）だけではなく、もっと広くいろいろな学校での取り組みを知り、よいものを創っていけるようにしたい。

明示の学制発布からほとんど変わらない評価についてプラッシュアップを志向する活動をしたい。

Hawken Schoolの評価シートはとても興味深かった。こういう評価の枠組みを改めて考えられるといいな。

今日参加して

とても充実した1日でした。ありがとうございました。
明日からの活力になります。

Seasons of Love

<https://www.youtube.com/watch?v=UvyHuse6buY>

評価が生徒の次のステップにつながるためにできることを同僚とも話したい。

最終の数字(評価)だけ見て生徒や保護者が終わってしまうことが多いのも、やはり評価の妥当性自体に問題があるから。

今日の話

自分が教えたことが最後の知識となる生徒がいるので、7割できたと喜ぶ生徒にも、もう一度解き直しをしてもらっています。自ら学ぶはなかなか大変です。

必然性のある評価とは

評価

ひとりひとりをみつめること

今、現在に注目

数値だけで判断するのではなく、子どもを見る力をつける

Seasons of Love

最後に生徒の姿と歌声を聞き、感動しました。ありがとうございました。

全てひとつの流れとして

子どもが何を学んだか、できるようになったかをどのように評価するのか。評価自体もそうであるが、どのように学びを保障できたのか。その環境づくりは？その学習は生徒の経験の質を変容させるものであったのか？それをどのようにはかるのか？毎時間毎時間の授業＝1分の積み重ね。薄皮一枚のようで確実に積み上がっているもの。どのように子どもたちを歩ませるのか、教師のデザインと、歩ませた足跡をどのように診るのかは一体となっている。その責任を教師は負っている。だからこそ、常に学び、常に考えなければいけないと思う。

セルフリフレクションに繋がる評価

評価の練習

トレーニング

評価は誰のため、何のためにある？

今日の内容、盛りたくさんで、有意義でした。

ありがとうございました。

評価に関する所属組織の教員の合意（までは行かなくとも何らかのすり合わせ）形成？

評価

生徒を評価することで、自分の意識があらわになる。テストの点数で評価するのは機械的にできるが、一人一人を見ていない。数字が意味するものはほんの一部。それなのにその数字が生徒の人生を決めてしまう。（入試や進路の意味でも、生徒の意識の面でも）教師は神ではないので、全員を正當に評価することはできない。それでも一人一人を見ることが大事

今まで僕は何をしていたんだろう

自律的学習者を育てる

評価って??

10月16日から「産業現場等における実習」があり、生徒はそれぞれ希望する企業や施設に直接働きに出かけます。その時にそれぞれの企業や施設に評価していただき、それを学校側がどういったフォーマットに記入してもらいます。評価の基準や内容が企業や施設それぞれになってしまっていて、さらにそれをどう扱うか、どう生かすか、その評価をどう読み取るかが課題だと思っています。進路指導主事としては、その評価表をいただいて終わり！ではなく、それをもとに、企業や施設と対話したり、本人、保護者、担任等々と対話したりして、評価を十分に生かした進路指導の在り方を探っていきたいと思います。

世界は未来は分からない。教員は間違えることがある。

子どもたちの幸せを考えて

なにをみて、なにを伝えるか？どうすれば子どもたちの成長に繋がるか。私たちがまず考え、試行錯誤していくことが必要だと思いました。

児童生徒中心の評価

数字の落とし穴

第9回

評価の現状と理想と課題
